

茶六本館

茶六本館は、1716 年に宮津の城下町に創業した旅館です。主に、近くの港に停泊している北前船から貨物を受け取るために訪れたお客が宿泊していました。人々の多くは出張目的で利用していたため、部屋は比較的小さいですが、今でも建築や家具は歴史的な雰囲気を保っています。

元のままの姿ではないですが、現在の建物は、大正時代（1912－1926）の 3 階建ての木造建築の貴重なサンプルです。2010 年に日本の有形文化財に登録されました。正面は格子窓と木製の仕切り板で飾られており、前世代の職人が持っていた技術の木工品の一つです。畳の床、床の間、欄間、掛軸、生花が伝統的な客室のもつ上品さを醸し出しています。また 2 階には海軍軍人の東郷平八郎（1848－1934）の書が掲げられています。

滞在中は天然温泉で入浴ができ、また冬は地元料理の旬のぶりしゃぶを楽しめます。